

国連 ESCAP Legal/Technical WG 会議報告

2016 年 11 月 21 日～11 月 26 日

バンコク（タイ）

報告者：国連 CEFACT 日本委員会
一般社団法人サプライチェーン情報基盤研究会
菅又 久直

I. 会議日程：

11 月 21 日（月） 東京発 バンコク着
11 月 22 日（火） Legal/Technical WG 会議
11 月 23 日（水） Legal/Technical WG 会議
11 月 24 日（木） Legal/Technical WG 会議／国連 ESCAP 研修会
11 月 25 日（金） 国連 ESCAP 研修会
11 月 25 日（金） バンコク発
11 月 26 日（土） 東京着

II. 会議参加の目的：

国連CEFACT日本委員会・サプライチェーン情報基盤研究会（SIPS）の国際連携活動の一環として、国連ESCAPが主催するUNNExTアドバイザリ拡大会議（Meeting of the Extended UNNExT Advisory Group on Cross-border Paperless Trade Facilitation）および国連ESCAP研修会（Capacity Building Workshop on the Framework Agreement on Facilitation of Cross-border Paperless Trade in Asia and the Pacific）に、UNNExTアドバイザリの一員として参加した。

なお今回の開催場所はバンコクの国連会議センター（UNCC）で、小生の渡航費用（航空賃および宿泊費）は国連ESCAPが負担した。

III. UNNExT アドバイザリ拡大会議：

アジア太平洋地域における電子貿易円滑化枠組協定（Framework Agreement on Facilitation of Cross-border Paperless Trade in Asia and the Pacific、以降フレームワーク協定と呼ぶ）は、2016 年 5 月 4 日に国連 ESCAP コミッションにて合意決議され（Resolution 72/4）、国連法務局（UN Office of Legal Affairs）におくられた後、10 月 10 日より各国の調印が開始されることとなった。調印期間は 2017 年 9 月 30 日までで、5 か国以上の調印により発効されることになる。なお、会議中の会話ではロシア、中国、モンゴリア、韓国、インド、パキスタンが調印候補に挙がっていた。

今回の UNNExT アドバイザリ拡大会議では、フレームワーク協定に基づく各国のシングルウィンドウ実装を支援するための法的および技術的検討を行った。

会議は、初めに国連 ESCAP 事務局（Yann Duval）よりフレームワーク協定の合意・調印状況の説明があり、その後、法的検討グループと技術的検討グループに分かれて具体的課題の審議を行った。小生（菅又）は、技術的検討グループの審議に参加し、「貿易円滑化における電子データと電子文書のための国際標準」を担当した。

UNNExT 拡大会議の参加者は以下の通り。

Mr. Yann Duval	ESCAP
Mr. Sangwon Lim	ESCAP
Mr. Luca Castellani	UNCITRAL
Mr. Sung Heun Ha	韓国（KTNET）
Mr. Koh Tat Tsen	シンガポール（Crimson Logic）
Mr. Tahseen Khan	インド（国連 CEFACT 副議長）
Ms. Mee Wan Wong	マレーシア（元 DAGANNET）
Mr. Hisanao Sugamata	日本（国連 CEFACT 日本委員会）
Ms. Hong Xue	中国（北京師範大学）
Mr. Umar Wahid	パキスタン（商務省）
Mr. Bryan Tan	ベトナム
Mr. Sergey A. Kiryushkin	ロシア（電話会議で参加）

<技術的検討グループの審議>

（１） 国際標準導入戦略（菅又）

国際標準およびガイドラインの適用戦略について、次の事項につきまとめた。

- ・ 国際標準と適用レイヤー
- ・ 考慮すべき国際標準とガイドライン一覧
- ・ 国際標準への適合性
- ・ 国際標準化組織

（２） 貿易円滑化リファレンスマップ（Sung Heun Ha）

貿易円滑化システムで扱うプロセス（Buy-Ship-Pay）と文書、および標準との関連一覧を作成しつつある。

（３） 技術ギャップチェックリスト（Mee Wan Wong）

貿易円滑化電子化推進レベルを把握するためのチェックリストを整備中である。チェック項目は次の分野をカバーする。

- ・ 貿易円滑化推進組織
- ・ 自動化の度合い

- ・ ICT 基盤整備
- ・ セキュリティ
- ・ ビジネスプロセス改革（BPR）
- ・ 情報項目の整合化
- ・ 人材育成
- ・ IT リテラシー
- ・ 予算確保

（４） セキュリティ相互承認（Tahseen Khan / Sergey A. Kiryushkin）

ロシアより PKI に基づく TTE（Transboundary Trust Environment）の構築につきプレゼンが行われた。TTE は、一昨年より国連 CEFACT へも提言しているが、技術・制度・手法が混在したガイドになっており、共通なガイドラインとして推奨できる状況にはなっていない。

（５） インターオペラビリティガイドライン

シングルウィンドウ間の相互運用性ガイドライン策定に着手している。ガイドラインは次の項目をカバーする。

- ・ 越境データ交換の範囲と導入モデル
- ・ 越境データ交換システムの枠組み
- ・ 越境データ交換システムのためのシングルウィンドウ
- ・ 相互運用性のための技術的考察
- ・ セキュリティ基盤
- ・ 相互運用性のためのゲートウェイ
- ・ プロセス当事者の認証
- ・ データ交換のための通信プロトコル
- ・ データ定義標準
- ・ 信頼性のレベル

IV. 国連 ESCAP 研修会：

UNNExT アドバイザリに加え、アジア太平洋地域各国の貿易円滑化（電子化）に携わる人材を集めて、フレームワーク協定に関わる研修会が行われた。

参加した 17 か国は次の通り。

ウズベキスタン、スリランカ、韓国、パプアニューギニア、パキスタン、ロシア（電話会議参加）、モンゴリア、中国、カンボジア、マレーシア、バングラディッシュ、ミャンマー、ラオス、ベトナム、フィリピン、モルディブ、アフガニスタン

（１） フレームワーク協定への加盟

発表者：Yann Duval（国連 ESCAP）

フレームワーク協定の位置づけ（WTO TFA（貿易円滑化協定）をアジア太平洋地域で推進するためのフレームワーク）と概要につき解説。また、フレームワーク協定批准の手続きにつき説明が行われた。

（２） 貿易円滑化先進システム

モデレータ：Sangwon Lim（国連 ESCAP）

韓国で進められている、次の貿易円滑化先進事例の紹介が行われた。

① KITA マーケットプレイス

発表者：Choonsik Kim（韓国 KITA）

KITA は、B2B グローバル E マーケットプレイス（EMP）を貿易円滑化システム（Utrade Hub）と統合化して提供している。また、Alibaba との共同 EMP サービスや、タイとのビジネスマッチング、ベトナムやマレーシアとの共同オンライン商取引ショーを開催するなど、アジア各国との E マーケティング連携を積極的に進めている。

② G4B サービス

発表者：Seon-Gwon KANG（韓国 NIPA）

ビジネスサポートのための行政ポータルを構築し、G4B サービスを提供している。

（３） フレームワーク協定のもとの国際データ交換

モデレータ：Somnuk Keretho（タイ Kasetsart 大学）

ディスカサント：Jonathan Kof（シンガポール）

ディスカサント：Umar Wahid（パキスタン）

国際データ交換における相互運用性の考え方、および ASEAN シングルウィンドウにおける事例についての紹介が行われた。

① 相互運用性

発表者：菅又 久直（日本 SIPS）

相互運用性の必要性和レイヤーアプローチ、セマンティック相互運用性とは、セマンティック標準のフレームワーク、コンフォーマンスとマッピング、および日本における業界横断 EDI フレームワークによる柔軟な相互運用性につき紹介した。➡添付（１）参照

② ASEAN シングルウィンドウ（ASW）

発表者：Marianne Wong（マレーシア）

各国の NSW（ナショナル・シングルウィンドウ）に ASW ゲートウェイを設置して相互接続を導入。

（４） セキュリティ相互認証

インド、韓国、ロシアより、セキュリティ相互認証の取組みにつき紹介された。

① インドの事例

発表者：Tahseen Khan（インド）

PKI フレームワークにおける相互認証システムへの取組みを紹介。

② PPA の事例

発表者：Sung Heun Ha（韓国）

PAA における PKI 導入事例の紹介。

③ ロシアの事例

発表者：Sergey A. Kiryushkin（ロシア）

EAEU (Eurasian Economic Union) における TTE (Transboundary Trust Environment) 導入の取組みを紹介。

以上

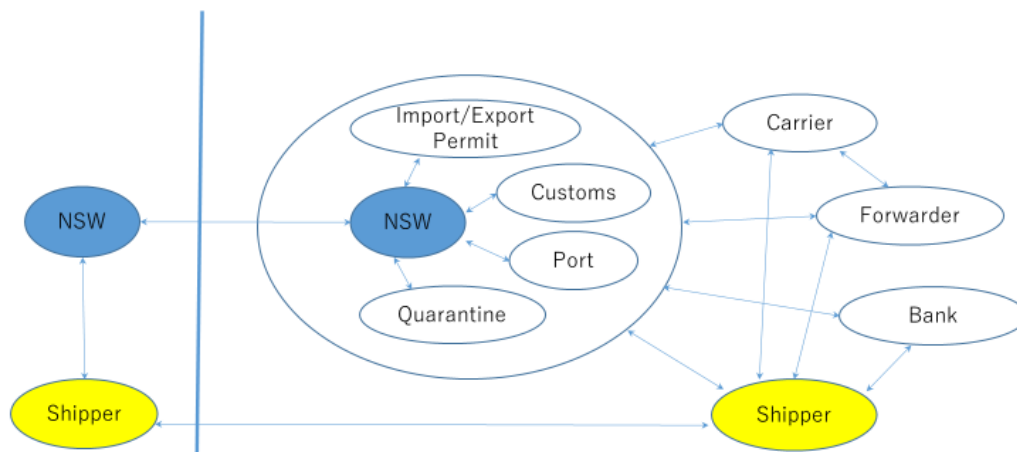
Importance of Interoperability

UN/CEFACT Japan Committee
Supply Chain Information Platform Study Group
<http://www.caos-a.co.jp/SIPS/>

Hisanao Sugamata
hsedi001@gmail.com

1

Interoperability Needs



2

FRAMEWORK AGREEMENT ON FACILITATION OF CROSS-BORDER PAPERLESS TRADE IN ASIA AND THE PACIFIC

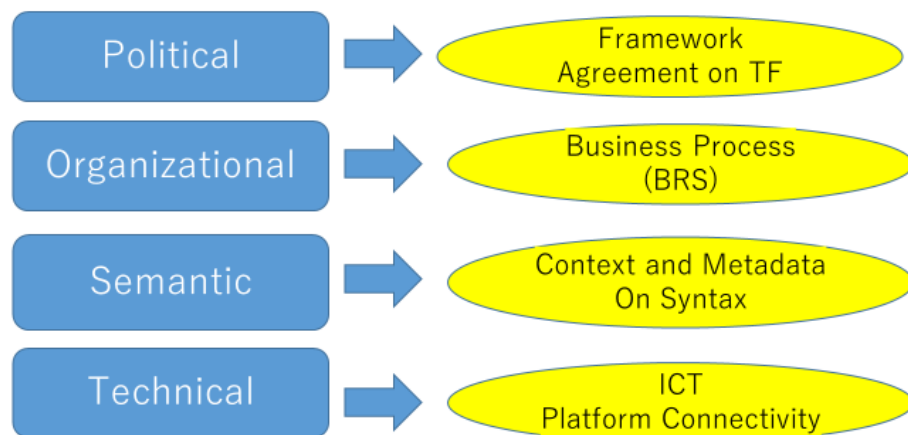
Article 9

International standards for exchange of trade-related data and documents in electronic form

1. The Parties shall endeavour to apply international standards and guidelines in order to ensure interoperability in paperless trade and to develop safe, secure and reliable means of communication for the exchange of data.
2. The Parties shall endeavour to become involved in the development of international standards and best practices related to cross-border paperless trade.

3

Interoperability Layer



4

Guidelines for Political layer

Examples

Recommendation 14: Authentication of Trade Documents

Recommendation 31: Electronic Commerce Agreement

Recommendation 33: Single Window Recommendation

Recommendation 34: Data Simplification and
Standardization for International Trade

Recommendation 35: Establishing a legal framework for
international trade Single Window

5

Standards for Organizational layer

Examples

UN/CEFACT BRS: Cargo tracing and tracking

UN/CEFACT BRS: Cross Industry Invoice

UN/CEFACT BRS: Export specification (eCert)

UN/CEFACT BRS: Transfrontier movement of waste

6

Standards for Semantic layer

Examples

ISO TC154 (UNTDED/*ISO*7372 Maintenance Agency) :
Trade Data Element Directory

UN/CEFACT: EDIFACT Directory
Message, Segment, Composite Data Element,
Data Element, UN Codelist

UN/CEFACT : Core Component Library
Core Component, Business Information Entity,
Data Type

7

Standards for Technical layer

Examples

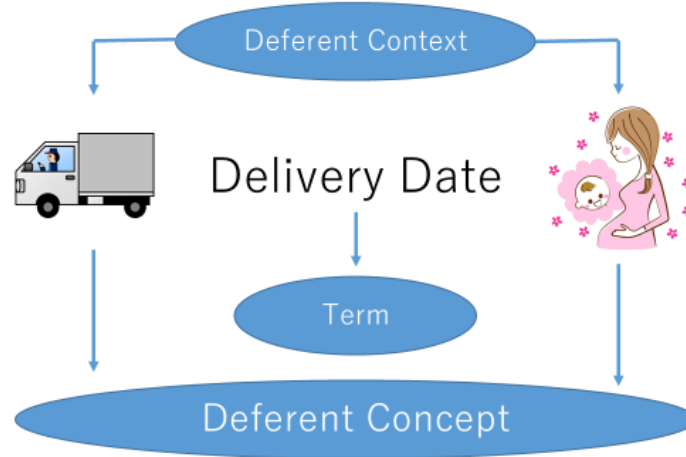
UN/CEFACT: XML Naming and Design Rules

TC154 ISO/TS15000-2: ebXML Messaging

Internet Standard : TCP/IP
HTTP
Base 64

8

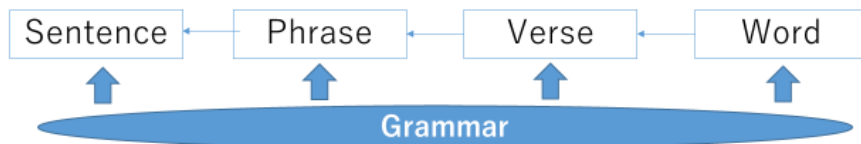
What is Semantic Interoperability



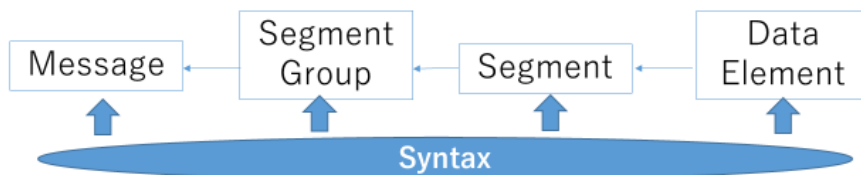
9

Framework of Semantic (1)

Natural Language



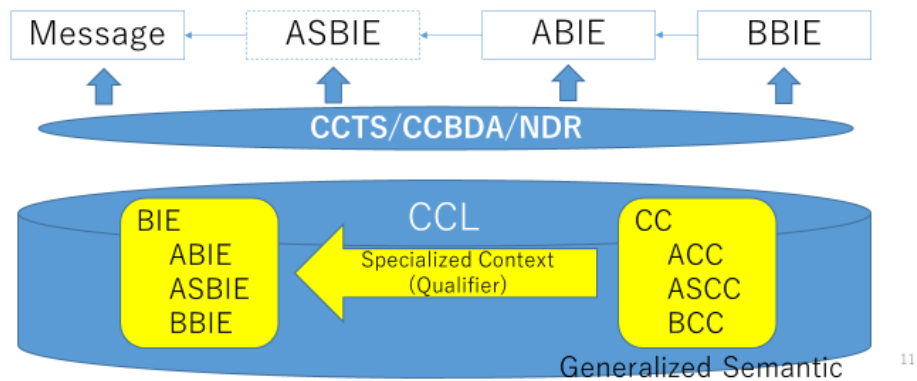
EDI Semantic (UN/EDIFACT)



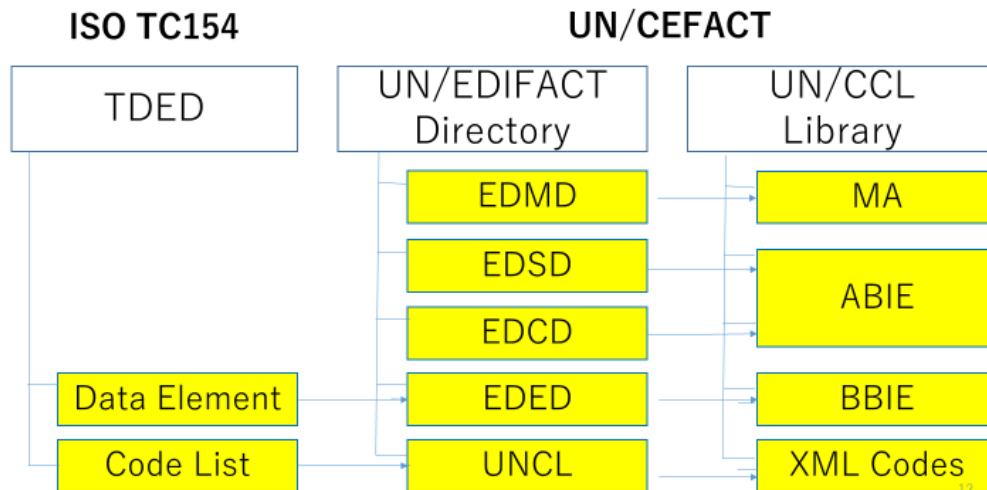
10

Framework of Semantic (2)

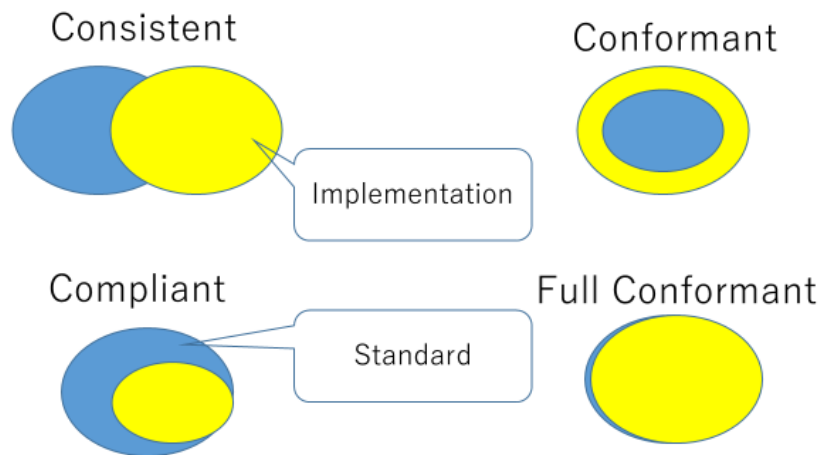
EDI Semantic (UN/CEFACT-XML)



Standards for Semantics

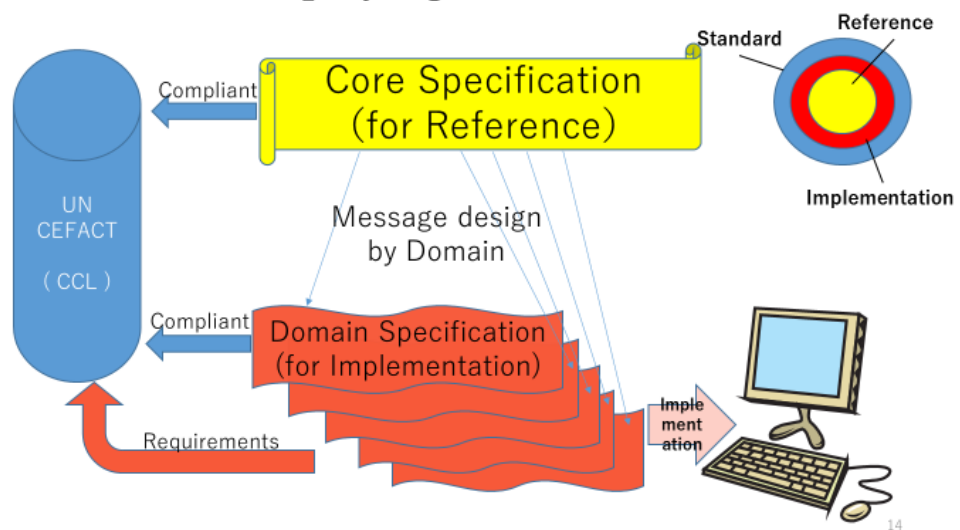


Conformance and Mapping



13

Deploying Standard



14

Conclusion

Various Domains should have interoperability for Trade Facilitation!

All the Domains should respect the International Standards!

Domain requirements should be respected in the Standard environment!

15